

# 夢の研究 その1

## —中学生の夢—

稲浦康稔、加藤豊比古、前田研史、鎌田穰、弘田洋二

### Study of the Dream No.1

#### —The Dream of Junior High School Students—

YASUTOSHI INAURA, TOYOHICO KATO, KENSHI MAEDA, MINORU KAMATA, YOJI HIROTA

#### はじめに

Kimmins, C. W.が“An Unexplored Land” (未知の国) という副題をつけて子どもの夢研究を発表したのは今から40数年前(1937年)<sup>1)</sup>であったが、子供の夢に関しては今でもなお多くの部分が未知のままであるとFoulkes, D.が彼の近著(1982年)“Children's Dreams”<sup>2)</sup>の冒頭に述べている。

古代から夢に関する数多くの文書が著わされて来たが昔話や文芸書以外に子どもの夢に言及しているものは特にPre-Freudianの時代においては筆者らの知る限り<sup>3)4)</sup>ほとんど見当たらない。

夢が心理的に重要な意味をもつことを明らかにしたのはいうまでもなくFreud, S.であるが、彼は「夢判断」<sup>10)</sup>において「小児の夢はしばしば単純な願望充足であって、その意味で貴重ではあるが、そこには特に解くべき謎はない」としてその(治療的)価値を軽視しているように思う。もっとも、Freud, A.の場合は父の「夢判断」に示される程子どもの夢は単純だとは限らないが解釈しやすいものが多いと述べ<sup>11)</sup>(1922~35年)子どもの夢の意義を認めている。Jung, C. G.にとっては夢は分析に最も重要な役割を果たすものであったし、子どもの夢体験が時には生涯を左右する決定的な意味を持つ場合もあることを認めている。しかしJungの関心は主として成人に向けられており、子どもの夢は一般的には「多くはきわめて単純で子どもっぽいものであり、即座に理解し得るもの」<sup>12)</sup>として徹底した考察は行っていない。その他Jung派の人々の中ではたとえばFordham, M.が子どもの夢について

くつかの事例を示しJung理論に基づく解説を行っている。<sup>12)</sup>樋口のJung心理学文献紹介<sup>13)</sup>にあるNeumann, E.の“The Child”(1973年)にも夢が扱われていると思うが、その詳細について現時点で筆者らには知る機会がなかった。今日では心理臨床に関与する人々にとって夢は最大の関心事となっている。子どもの夢についても成人夢ほどではなくても昨今の事例研究でとりあげられることが多くなった。しかし臨床家の夢についてのかかわり方はあくまでも事例としての方法的接近であり、子どもの夢の一般的、普遍的傾向を明らかにすることを目的とするものではない。しかし河合が箱庭療法の今後の問題として指摘している「いわゆる個性記述的(idiographic)な方法と法則定立的(nomothetic)方法との関連」<sup>14)</sup>は子どもの夢研究についてもそのままあてはまる課題である。先述のKimminsはその先駆者のひとりであるが、近年ではFoulkes<sup>2)</sup>がREM(Rapid Eye Movement)-monitoring-の手法を用いて実験室夢(laboratory dream)を子どもについて継続的に採取すると同時に家庭夢(home dream)との差異を比較し、さらに各種心理テストを実施して夢との関連的分析を行っており筆者らの今後の研究にも多くの示唆を与えているがその詳細について述べる余裕はない。しかし、このFoulkesをして子どもの夢は今なお未知の部分が多いと語らせねばならない程、Freud以後でも約80年の間、児童心理学や発達心理学の他の分野の発展に比べ、子どもの夢研究ははるかに遅れている事実をわれわれは認めざるを得ないと思う。

わが国における子どもの夢研究の現状も諸外国の場合と同様である。1900~20年頃、高峰博は広範な分野にわ

たる夢研究を行い、その結果を「夢学」<sup>16)</sup>として公刊している。子どもの夢に関しては「第四編夢学各論の第一章小児夢」において、子どもと成人、精神病者、未開人との比較を始め、小児における夢生起の年齢、小児夢の夢内容の特長、年齢による比較、小児の個性、環境による差異、異常児の夢、病的な夢や不安夢、恐怖夢、夢に関する小児の思想や迷信等につき、自身や内外諸家の研究を報告している。その内容や考察は今日では諸種の批判が加えられるであろうが、上述の項目はわれわれの関心と一致するものであり、本書以後類書がない点で貴重である。高峰と同時代に石橋臥波による「子どもの夢」(1917年)「児童の夢」(1917年)、高島平三郎の「子供の教育と夢の応用」(1917年)が発表されていることが高島により報告されている。

日本心理学会第一回大会(1926年)<sup>16)</sup>には吉益脩夫による尋常者の夢の頻度および快、不快夢について小児期(10歳)から老年期(60~80歳)にわたる比較に関する発表がある。1932年には波多野いそ子が「児童の夢の繪」を心理学研究<sup>17)</sup>に発表している。守屋光雄は幼稚園児を対象にPiaget, J.の臨床法を応用して児童の夢観念をはじめ夢内容について調査を行い、あわせて彼等のみた夢を絵にかかせ「就学前期児童の夢と絵の研究」<sup>18)</sup>と題して報告している(1944年)。

北見芳雄は小中学生について夢調査を行い、児童の夢には願望夢が多く、また彼等の夢は検閲を被ることが少ないと述べている<sup>19)</sup>(1958年)。近年では新美良純らが「子どもの睡眠と夢」<sup>20)</sup>に関する総論的解説を行い、特にREM睡眠、NREM睡眠と夢とを関連させながら研究を行う生理学的ないし生理心理学的接近法による夢研究の成果の一部について紹介している。その他松本淳治、<sup>21)22)</sup>大熊輝雄ら<sup>23)</sup>がそれぞれの著書において子どもの夢について若干の言及を行っている。さらに臨床心理学分野における事例研究でも子どもの夢がしばしばとりあげられている。

以上、内外の子どもの夢研究の経過をごく簡単に概観して来たが、Foulkesのこぼどおり子どもの夢の世界は今もなお“Unexplored Land”であることをわれわれも承認しなければならないと思う。

筆者らは上記のような認識のもとで、数年前から子どもの夢研究に着手し、とりあえず次の事柄について可能な限り多くのデータを収集、整理し子どもの夢の世界への接近を試みている。

1) 子どもはいつ頃から夢を見るのか、この設問の表現は必ずしも正確ではない。松本淳治の表現を借りれば<sup>22)</sup>いささか愚問ということになる。松本は夢(Dream)は夢見(Dreaming)プラス言語であり、<sup>21)</sup>ことばが言える

ようになってはじめて夢をみたということができると主張し、生理的・感覚的体験過程であるDreamingと他者への言語による報告内容であるDreamとを厳密に区別する。たしかに、われわれが子どもの夢をとる手段は言語によるしかない。子どもが夢体験を語ってくれなければ彼等が夢をみたかどうか判断できない。したがって上記の設問は子どもはいつ頃から夢を報告できるかと修正しなければならない。この回答は一見簡単であるように見える。それは子どもがことばを話すようになってからである。しかし事情はそれ程単純ではない。子どもが睡眠中の夢み体験を覚醒後“夢”として他の体験と区別して認知し(意識化し)、それを言語化して報告できなければ“夢自体”として採用できないのではないか。かねてから児童心理学の諸分野の中で夢研究の進歩を妨げてきた要因として子どもの言語表現の不確かさや不十分さ、夢と現実との区別の困難性があげられてきた。筆者らはこの問題を夢認知の能力の問題として認知発達全般の過程の上に位置づけて解明して行きたいと考えている。現在のところわれわれは夢の国の入口を探しあぐねているともいえるし、入口のところで入場許可証となるべきパラメータを持ちあわせていないので入場できないともいえる。これを見出すにはなお相当の時間と努力が必要であろう。それまではJung, C. G.<sup>24)</sup>にない“Children and fools speak the truth”というproverbを思い起しつつ子どもたちが話してくれる多くの夢物語りをありのままに傾聴し、そこから洞察を得なければならない。

2) 子どもはどのような夢を見るか。その夢をどのように整理し、分類するか、いわゆる内容分析についてであるが、研究者によって種々の分類が試みられている。今回報告のHall, C. S.らの分類もその一例である。われわれは必ずしもHallの分類に満足しているわけではない。臨床的利用に役立つ分類ということを目指す場合、どのような観点に立って範疇化するのがよいかは、今後の課題としている。

3) 子どもの夢は年齢とともにどのように変化して行くか、子どもの夢から成人の夢への変化の過程を明らかにしたい。あるいはまた“とるにたりない(子供の)小さい夢(little dream)”から“無意識の深層にあつて強大な力を持つ大きな夢(big dream)”へと移り変って行く過程としてとらえることはできないであろうか。

4) 子どもはなぜそのような夢をみるのか。夢の原因は前記2), 3)との関係において解明されねばならない。他方この設問は子どもの夢観念としても検討される必要もある。

5) 子どもは彼等の夢体験によってどのような影響を

うけるのか。パーソナリティ形成に対する夢体験の関与の程度と種類について明らかにすることは臨床上重要な課題であろう。

以上のような種々の観点から子どもの夢研究を進めて行くことを計画し、すでに保育所児童<sup>24)</sup> (2~3歳) 幼稚園児<sup>25)</sup> (4~5歳) 小学生<sup>26,27,28)</sup> 中学生<sup>18,29)</sup> 高校生<sup>28)</sup> につき調査を開始しデータの収集を行っているが、今回はとりあえず中学生の夢研究の一部を報告することとした。

## 目 的

夢報告の生態学的研究の一環として、HALL, C. S. & VAN de CASTLE, R. L.<sup>9)</sup>の“Content Analysis”法を用いることにより、報告夢の発達の諸様相の分析を目的とする。今回の報告では、中学生を対象とし、その報告夢を“Content Analysis”法によって分析し、諸特徴をさぐった。また、“Content Analysis”法は多くの分析項目から成っており、今回の報告では紙面の都合で全ての結果を報告することが困難であるので、特に、以下の3項目についての分析結果を報告するにとどめておきたい。

- 1) Settings: 夢報告の場面。
- 2) Objects: 夢報告に登場する事物。
- 3) Characters: 夢報告にみられる登場人物。

なお、他の項目の分析結果については、今後、続報として、報告してゆきたい。また、本稿の一部を昭和57年度関西心理学会において発表した。

## 方 法

アンケート用紙を配布し、『最近みた夢で覚えている夢を、できるだけ詳しく書いて下さい』という教示を与えた。被験者の自由再生により回収された報告夢をHALL, C. S. & VAN de CASTLE, R. L.の“Content Analysis”法により分析した。アンケートの実施時期は、昭和54年11月であった。なお、統計的有意差は $\chi^2$ 検定により求めた。

## 対 象

大阪府下公立中学校3校の1~3年生男女を対象としアンケート調査を行い、その総数は373人である。そのうち、実際に報告の得られた人数は198人である。以下、各学年別、男女別の内訳を示す。カッコ内は、実際の報告数である。

- 1年生男子64人 (38人)、同女子55人 (31人)。  
 2年生男子69人 (40人)、同女子64人 (31人)。  
 3年生男子59人 (25人)、同女子62人 (29人)。

## 結果と考察

Table 1a, 1bはSettingについて、各学年別、男女別の報告者数及びその有意差を示している。まず男子についてみると、1年生では、夢の場面がIndoorであるものが過半数を占めている。2年生との比較では、有意な差がみられ、3年生との比較においては有意な差は得られなかったが、パーセンタイルで比較してみると、やはり多くなっている。2年生男子におけるOutdoorの多さを考慮すると、1年生は夢の中で、部屋の中ないし閉じられた空間を多く体験し、2年生では、野外ないし開かれた空間を体験しているものが多いとすることができるであろう。

3年生では、夢の場面が部屋の中なのか屋外なのかを覚えていないTotal ambiguousが、1年生よりも有意に多く、全体の1/5にも達している。自分が部屋の中にいるのか、屋外にいるのか解らないという曖昧さが、そのことに注意を払っていなかったというだけのことにより生じているのか、あるいはその曖昧さの体験そのものが意味を荷っているのかということは、興味深い問題である。

女子では、1~3年生を通じてTotal indoorおよびTotal outdoorに差はみられないが、Total ambiguousについては、1年生で、女子は男子よりも多い。また3年生女子は、2年生女子よりも多いという結果が得られている。

次に、夢の場面が、夢をみた人にとってなじみのあるものであるかどうかについて、男子で得られた結果を整理すると、Total familiarにおいては、1年生が2年生より有意に多い。Total unfamiliarについては逆の結果が出ている。また、Total unfamiliarについては、3年生でも、1年生より有意に多くなっている。1年生では、夢の場面が、2、3年生よりもなじみのある場所であることが多く、2、3年生では未知の場所であることが多いとすることができる。

女子については、学年間の差は見出せなかったが、2年生の男女を比較すると、女子では男子よりもTotal familiarの人数が多いという結果が出ている。

夢の場面が、閉じられた空間であるかどうか、なじみのあるものであるかどうかの2つの分析項目を総合して分析すると、夢の場面が、閉じられた空間であり、かつなじみのあるものである (Indoor familiar) 夢を報告した人数で、1年生男子が2年生男子よりも有意に多くなっている。

男女を総合して、学年別に差を検討すると、夢の場面が閉じられた空間であったか、開かれた空間であったか

Table 1a Settings

	1M	1F	T1	2M	2F	T2	3M	3F	T3
Total no. of settings	58	41	99	61	35	96	38	35	73
Average no. per dream	1.5	1.3	1.4	1.4	1.1	1.3	1.5	1.2	1.4
Total indoor	31	18	49	22	16	38	13	13	26
Total outdoor	24	14	38	33	15	48	17	12	29
Total ambiguous	1	6	7	4	1	5	8	9	17
No setting	2	3	5	2	3	5	0	1	1
Total familiar	27	20	47	17	17	34	15	11	26
Total distorted	1	0	1	1	0	1	0	0	0
Total geographical	1	1	2	3	0	3	3	0	3
Total questionable	13	10	23	19	7	26	6	10	16
Total unfamiliar	9	7	16	19	8	27	14	13	27
Indoor familiar	20	13	33	9	12	21	9	9	18
Indoor distorted	0	0	0	1	0	1	0	0	0
Indoor geographical	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Indoor questionable	9	2	11	6	3	9	1	3	4
Indoor unfamiliar	2	3	5	6	1	7	3	1	4
Outdoor familiar	6	6	12	7	5	12	6	2	8
Outdoor distorted	1	0	1	0	0	0	0	0	0
Outdoor geographical	1	1	2	3	0	3	1	0	1
Outdoor questionable	9	4	13	10	3	13	3	3	6
Outdoor unfamiliar	7	3	10	13	7	20	7	7	14
Ambiguous familiar	1	1	2	1	0	1	0	0	0
Ambiguous distorted	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Ambiguous geographical	0	0	0	0	0	0	2	0	2
Ambiguous questionable	0	4	4	3	1	4	2	4	6
Ambiguous unfamiliar	0	1	1	0	0	0	4	5	9

Note: M=Male; F=Female; T=Total; 1=1st grade; 2=2nd grade; 3=3rd grade.

Table 1b  $\chi^2$  tests of "Setting"

	1M-1F	2M-2F	3M-3F	1M-2M	2M-3M	3M-1M	1F-2F	2F-3F	3F-1F	T1-T2	T2-T3	T3-T1
Total indoor				$6.069^*$		$4.400^*$						
Total ambiguous	$4.286^*$					$7.948^{**}$		$5.477^*$			$10.182^{***}$	$8.963^{**}$
Total familiar		$4.167^*$		$4.453^*$								
Total unfamiliar				$4.937^*$		$5.731^*$		$5.681^*$	$4.058^*$			$11.658^{***}$
Indoor familiar		$4.964^*$		$6.279^*$								
Outdoor unfamiliar										$4.312^*$		

Note: M=Male; F=Female; T=Total; 1=1st grade; 2=2nd grade; 3=3rd grade.

\*\*\* $p < .001$

\*\* $p < .01$

\*  $p < .05$



明確でないもの (Total ambiguous) が、3年生で1、2年生より多いという結果が、また夢の場面がなじみのない場所であるという体験は、2、3年生が1年生よりも多いというように、男子における学年別推移をそのまま支持している。一方、夢の場面が、開かれた空間であって、かつなじみのある場所 (Outdoor familiar) であるという報告は、2年生が1年生よりも有意に多かった。

Table 2 は、1つの報告夢のなかに記されている事物 (Objects) の数によって報告夢を区分したものである。学年別にその最頻値をみると、Objects の数は1年生と3年生では1個が最も多く、2年生では2個となっている。また、Objects を2個報告した者は、2年生では3年生に比較して有意に多い。

Table 3a は Objects の種類で、どのような Objects が、何人の夢のなかに報告されているかを表わし、Table 3b はその有意差を示している。男子では、建築物 (Architecture) は、1年生より2年生が少なく、3年生でまた増加している。女子においては、このような学年差はみられない。このように、男子において、建築物の報告がV字型の増減を示している。また、道具 (Implements) の出現する夢報告は、1年生において、男子が女子より多く、男女差がみられるが、2、3年生では男女差はみられない。学年間の比較では、2年生では、Implements の出現が3年生に比して有意に少ない。一般に、他の学年において多く出現する Objects が、2年生ではあまり多く出現しない傾向が見られる。

Table 4 は、1つの夢に登場する人物 (ないし生物)、即ち Character の数を示している。最頻値はほとんどの場合、1個である。特に、2年生は、男女とも5割以上の報告夢においてこのことが認められる。

Table 5a は、characters の特性についてまとめたもの (Summary of characters) であり、Table 5b は、男女

間及び学年間の有意差について検討したものである。各学年ごとの、男女間における特徴的な違いは登場人物の性別である。2年生において、男子で Male および Familiar male が、女子で Female および Familiar female が有意に多い。有意差はないものの、この傾向は1年生、3年生にも認められる。中学生の夢においては、夢をみる人物と親しい同性が登場する傾向が明らかである。これに対し Unfamiliar であるものについては、たとえ同性であっても男女差は認められない。

親しいもの (Familiar) が登場するか、見知らぬもの (Unfamiliar) が登場するかに関して、有意性はないものの、男女とも学年が進むにつれて、Familiar が次第に増加し、Unfamiliar は次第に減少する傾向がある。すなわち、1年生では男女とも出現率に大差はないものが、3年生においてその差が最大となり、男女とも Familiar の方が多く登場し、接触がもたれている。ただし、各学年とも Familiar は女子に、Unfamiliar は男子に多く出現する傾向もみられる。

夢のなかの登場人物の性別が明らかでないもの (Indefinite) について、Familiar indefinite と Unfamiliar indefinite を比較した場合、各学年とも前者は女子に、後者は男子に多い傾向がある。しかし、3年生ではこの傾向は比較的少ない。

登場人物の年齢に関しては、各学年とも大人 (Adults) が男子に多い傾向があり、学年による推移をみると、1年生が2年、3年に比し有意に多く、また男子において、1年生が2年生より有意に多い。

登場人物が夢報告と同年齢位である (Teenager) 場合は、各学年とも女子に多い傾向があり、しかも学年が進むにつれ増大し、1年生と3年生の間に有意性が認められる。

Table 6a は Character を、家族、知人など、夢報告者に

Table 2 Number of Objects per Dream

Number of objects	1M	1F	T1	2M	2F	T2	3M	3F	T3
0	1	3	4	1	2	3	1	7	8
1	8	9	17	10	6	16	7	5	12
2*	9	4	13	11	13	24	3	6	9
3	7	7	14	8	2	10	4	5	9
4	7	3	10	6	3	9	3	3	11
5	2	2	4	3	2	5	1	2	3
6	1	1	2	2	3	5	1	1	2
7	1	0	1	1	0	1	0	0	0
8	0	1	1	1	0	1	0	0	0
9	2	0	2	1	0	1	0	0	0
10	0	1	1	0	0	0	0	0	0

Note: M=Male; F=Female; T=Total; 1=1st grade; 2=2nd grade; 3=3rd grade.  
 \* 1F < 2F  $\chi^2=5.187$   $p < .05$ ; T2 > T3  $\chi^2=4.055$   $p < .05$ .

とってどのような位置を占めるものかによって細分化したものであり、Table 6bは、各項目ごとの男女間・学年間の有意差を検討したものである。(数字は、登場人物の数が単数か複数かを示しており、1は単数、2は複数の意味する。)

家族構成員 (Family) が夢に登場する場合は、1年生で、女子が男子より多くなっている。他の学年では、男女間の差は得られなかった。また、学年によっても違いはみられなかった。

家族をさらに細かくみても3年男子において、父親(1MFA)の出現率が10%、母親(1FMA)の出現率が16.7%である以外、家族の出現は他の全ての学年、男女にわたって10%に満たない。また親類縁者の登場は、1年生の男女にわずかに認められるのみである。

家族、親類縁者以外の知人は、全体を通じて多く出現

している。男子では、学年による出現率の推移はみられないが、女子では、学年とともに出現率が増加し、特に1年と3年の間で有意な差がみられる。さらに学年別にも、3年生は、1年生よりも、夢のなかで家族以外の知人と交流する体験をしているとすることができる。

知人を性別、年齢により細分化してみると、男女とも同年令層の知人との交流を体験することが多く、この傾向は、男女とも学年とともに増加している。これは、先述したように、男子でなじみのある人物との交流の体験が増加する傾向にあったこととも一致している。

Table 3a Objects

	1M	1F	T1	2M	2F	T2	3M	3F	T3
Total no. of objects	116	85	201	131	77	208	67	60	127
Average no. per dream	3.0	2.7	2.9	3.0	2.5	2.8	2.7	2.2	2.5
Architecture	38	31	69	24	20	44	21	20	41
AR Residential	11	9	20	4	8	12	5	4	9
AV Vocational	14	12	26	4	4	8	9	9	18
AE Entertainment	2	3	5	6	3	9	0	0	0
AI Institutional	4	1	5	5	0	5	3	3	6
AD Detail	7	5	12	2	5	7	3	3	6
AB Building	0	1	1	0	0	0	0	0	0
AM Miscellaneous	0	0	0	3	0	3	1	1	2
HH Hous hold article	2	5	7	7	7	14	1	5	6
FO Food or drink	1	4	5	2	5	7	1	0	1
Implements	14	1	15	9	3	12	11	4	15
IT Tools	4	0	4	0	0	0	0	0	0
IW Weapons	5	0	5	4	1	5	6	2	8
IR Recreational	5	1	6	5	2	7	5	2	7
TR Travel	14	12	26	19	6	25	9	6	15
ST Streets	3	4	7	7	7	14	1	3	4
RG Regions	6	3	9	12	3	15	3	5	8
NA Nature	9	7	16	21	5	26	3	2	5
Body Parts	9	6	15	12	5	17	7	6	13
BH Head	5	2	7	5	2	7	3	3	6
BE Extremities	1	4	5	2	2	4	2	2	4
BT Torso	3	0	3	2	0	2	0	1	1
BA Anatomy	0	0	0	1	1	2	2	0	2
BS Sex	0	0	0	2	0	2	0	0	0
CL Clothes	4	0	4	5	4	9	2	3	5
CM Communication	12	9	21	12	12	24	8	5	13
MO Money	2	0	2	0	0	0	0	0	0
MS Miscellaneous	2	3	5	1	0	1	0	1	1

Note: M=Male; F=Female; T=Total; 1=1st grade; 2=2nd grade; 3=3rd grade.

Table 3b  $\chi^2$ tests of "Objects"

	1M-1F	2M-2F	3M-3F	1M-2M	2M-3M	3M-1M	1F-2F	2F-3F	3F-1F	T1-T2	T2-T3	T3-T1
Architecture				> 6.821**	< 4.281*					> 8.873**	< 5.158*	
AV Vocational										> 11.080***	< 11.747***	
AE Entertainment											> 4.113*	
Implements		> 6.924**			< 4.450*							
NA Nature											> 5.903*	

Note: M=Male; F=Female; T=Total; 1=1st grade; 2=2nd grade; 3=3rd grade.  
 \*\*\*p<.001  
 \*\*p<.01  
 \*p<.05

Table 4 Number of Characters per Dream

Number of characters	1M	1F	T1	2M	2F	T2	3M	3F	T3
0	3	3	6	4	3	7	5	0	5
1 *	17	10	27	26	16	42	11	10	21
2	8	12	20	7	5	12	5	11	16
3	8	4	12	3	6	9	3	8	11
4	1	0	1	3	1	4	0	0	0
5	0	1	1	1	0	1	1	0	1
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	0	1	1	0	0	0	0	0	0

Note: M=Male; F=Female; T=Total; 1=1st grade; 2=2nd grade; 3=3rd grade.  
 \* 1F<2F  $\chi^2=4.443$  p<.05; T2>T3  $\chi^2=3.988$  p<.05.

Table 5a Summary of Characters

	1M	1F	T1	2M	2F	T2	3M	3F	T3
Total characters	64	54	118	60	43	103	35	58	93
Average no. per dream	1.4	1.9	1.7	1.4	1.5	1.5	1.4	1.9	1.7
Total animals	3	3	6	8	2	10	5	2	7
Total creatures	2	1	3	2	4	6	0	0	0
Single animals	3	3	6	5	1	6	4	2	6
Plural animals	0	0	0	3	1	4	1	0	1
Total human characters	59	50	109	50	37	87	30	56	86
Total single human characters	38	27	65	28	20	48	18	36	54
Total plural human characters	21	23	44	22	17	39	12	20	32
Total male	25	16	41	32	10	42	15	22	37
Total female	9	14	23	3	13	16	7	15	22
Total joint sex	2	4	6	2	5	7	0	5	5
Total indefinite	23	16	39	13	9	22	8	14	22
Total familiar	29	29	58	27	27	54	20	44	64
Total unfamiliar	30	21	51	23	10	33	10	12	22
Familiar males	15	8	23	22	7	29	11	16	27
Unfamiliar males	10	8	18	10	3	13	4	6	10
Familiar females	6	11	17	2	11	13	4	14	18
Unfamiliar females	3	3	6	1	2	3	3	1	4
Familiar indefinite	7	7	14	2	6	8	5	10	15
Unfamiliar indefinite	16	9	25	11	3	14	3	4	7
Familiar joint sex	1	3	4	1	3	4	0	4	4
Unfamiliar joint sex	1	1	2	1	2	3	0	1	1
Total adults	37	24	61	23	13	36	14	20	34
Total teenagers	22	23	45	27	23	50	16	36	52
Total children	0	3	3	0	1	1	0	0	0
Total babies	0	0	0	0	0	0	0	0	0

Note: M=Male; F=Female; T=Total; 1=1st grade; 2=2nd grade; 3=3rd grade.

Table 5b  $\chi^2$ tests of "Summary of Characters"

	1M-1F	2M-2F	3M-3F	1M-2M	2M-3M	3M-1M	1F-2F	2F-3F	3F-1F	T1-T2	T2-T3	T3-T1
Total male			$9.383^{**}$									
Total female			$10.308^{**}$									
Total familiar								$4.218^*$		$4.568^*$	$6.305^*$	
Total unfamiliar												$11.628^*$
Familiar males			$6.528^*$									
Familiar females			$9.315^{**}$									
Unfamiliar indefinite												$5.739^*$
Total adults				$4.709^*$						$6.260^*$		$4.814^*$
Total teenagers								$4.255^*$				$6.618^*$

Note: M=Male; F=Female; T=Total; 1=1st grade; 2=2nd grade; 3=3rd grade.  
 $** p < .01$   
 $* p < .05$



Table 6a Frequencies for all Characters subclasses

Characters	1M	1F	T1	2M	2F	T2	3M	3F	T3
1. Family	2	9	11	5	1	7	6	6	12
1MFA Father	0	1	1	2	0	2	3	1	4
1MBA Brother	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1MBT Brother	0	1	1	2	0	2	1	2	3
1MBC Brother	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1MHA Husband	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1FMA Mother	2	3	5	1	0	1	2	2	4
1FTT Sister	0	2	2	0	0	0	0	0	0
1FTC Sister	0	1	1	0	0	0	0	0	0
2JXA Parents	0	0	0	1	1	2	0	0	0
2JYA Family member	0	1	1	0	0	0	0	0	0
2. Relatives	3	3	6	0	0	0	0	0	0
1MRA	0	1	1	0	0	0	0	0	0
1FRA	1	1	2	0	0	0	0	0	0
2IRA	2	1	3	0	0	0	0	0	0
3. Known	19	17	34	19	21	40	12	32	44
1MKA	1	0	1	0	1	1	0	0	0
1MKT	7	2	9	9	1	10	6	7	13
1FKA	2	0	2	0	0	0	0	0	0
1FKT	2	5	7	0	4	4	0	10	10
1IKA	0	1	1	1	1	2	0	0	0
1IKT	0	2	2	0	2	2	1	3	4
2MKT	5	0	5	7	3	10	1	2	3
2FKT	0	2	2	1	6	7	1	1	2
2IKA	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2IKT	2	3	5	1	1	2	3	4	7
2JKT	0	2	2	0	2	2	0	4	4
4. Prominent	0	2	2	0	0	0	1	3	4
1MFA	0	1	1	0	0	0	0	2	2
1FPA	0	0	0	0	0	0	1	0	1
2FPT	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2JPA	0	1	1	0	0	0	0	0	0
5. Occupational	12	7	19	5	5	10	4	4	8
1MOA	4	2	6	1	1	2	0	2	2
1IOA	4	1	5	1	2	3	1	1	2
2MOA	2	2	4	3	1	4	2	0	2
2FOA	0	0	0	0	0	0	0	1	1
2IOA	2	2	4	0	1	1	1	0	1
6. Ethnic	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7. Strangers	11	9	20	8	6	14	6	9	15
1MSA	3	0	3	1	0	1	1	3	4
1MST	0	1	1	1	2	3	0	1	1
1FSA	1	1	2	0	0	0	1	0	1
1FSC	0	1	1	0	0	0	0	0	0
1TSA	2	0	2	1	1	2	0	0	0
1TST	6	0	0	0	1	1	0	0	0
2MSA	0	0	0	2	0	2	0	1	1
2MST	0	1	1	1	0	1	0	0	0
2FSA	0	0	0	0	0	0	2	0	2
2JSA	0	0	0	1	2	3	0	0	0
2JST	1	0	1	0	0	0	0	0	0
2ISA	4	4	8	0	0	0	1	3	4
2IST	0	1	1	1	0	1	1	1	2
8. Uncertain	7	3	10	10	0	10	1	2	3
1MUT	0	0	0	0	0	0	1	0	1
1FUA	0	1	1	0	0	0	0	0	0
1FUT	1	0	1	1	0	1	0	0	0
1IUA	2	0	2	3	0	2	0	1	1
1IUT	1	0	1	2	0	2	0	0	0
1IUC	0	1	1	0	0	0	0	0	0
2MUT	0	1	1	1	0	1	0	0	0
2FUT	1	0	1	0	0	0	0	0	0
2JUA	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2IUA	1	0	1	3	0	3	0	0	0
2IUT	1	0	1	0	0	0	0	0	0
9. Dead, Imaginary, and Metamorphoses	7	1	8	2	4	6	0	0	0
Dead						None			
Imaginary	5CZZ	5CZZ							
	2CZZ								
	8CZZ								
	8CZZ								
	8CZZ								
	8CZZ								
Metamorphoses	7D			7D	7D				
	8MUA			8MFA	8FST				
	7IKA			7MKT	7D				
	8CZZ			8MFA	8MFC				
	7ISA				7D				
	8CZZ				8FOA				
	7JYT				7D				
	8CZZ				8PFA				
	7PYA								
	8CZZ								

Note: M=Male; F=Female; T=Total; 1=1st grade; 2=2nd grade; 3=3rd grade.

Table 6b  $\chi^2$ tests of "Frequencies for All Characters Subclasses"

	1M-1F	2M-2F	3M-3F	1M-2M	2M-3M	3M-1M	1F-2F	2F-3F	3F-1F	T1-T2	T2-T3	T3-T1
1. Family	4.859*											
3. Known							4.476*			7.986**		
8. Uncertain	6.511*											

Note: M=Male; F=Female; T=Total; 1=1st grade; 2=2nd grade; 3=3rd grade.  
 \*\*p < .01  
 \*p < .05

要 約

夢の生態学的研究の一環として、中学生373人(男192人, 女181人)の夢を調査した。夢は自由再生により採集され"Content Analysis"(Hall, C. S. & VAN de CASTLE '66法<sup>9)</sup>により分析された。但し, 本小論では"Settings", "Objects", "Characters"の3項目について検討した。

1) "Settings": 男子では, 2年生を境に, UnfamiliarあるいはAmbiguousな状況をより多く体験するようになる傾向がある。女子では男子ほど明確ではないが, 3年生が同様の転回点と認められる。

2) "Objects": 全学年を通してArchitectureが最も多く見られ, Travel Communicationと続く。Architectureは2年生において減少し, 3年で再び増加するというV字型の増減傾向を示す。これは特に, AV (Architecture Vocational) によって支持されている。

3) "Characters": 各学年男女とも報告者と同性の人物が登場する傾向があり, 男子ではUnfamiliar, 女子ではFamiliarが多い。したがって, 各学年とも男子でUnfamiliar maleが, 女子でFamiliar femaleが多い。

さらに, 男女とも学年が進むにつれてFamiliarが増加し, Unfamiliarが減少する傾向がみられた。

登場人物の年齢に関しては, 男子ではAdultsが, 女子ではTeenagersが多かった。

今後, 他の項目についての分析結果も報告してゆく予定であるが, さらに高校生, 大学生, 成人, あるいは児童との比較を行い, 広範な発達の検討を加えてゆきたい。

謝 辞

本調査において御多忙中にもかかわらず, 多大な御尽力を頂いた。浜田直俊先生, 西井正宏先生, 村上辰東輝先生をはじめ多くの諸先生方に感謝致します。また, この調査に協力していただいた生徒諸君にも感謝致します。

なお, 英文要約に関して, ブラジルからの当研究室留学生, 久保ジュリアさんの協力を得, ここに感謝の意を表します。

文 献

- 1) Kimmins, C. W. : Children's dreams : An unexplored land. Allen and Unwin. (1937)
- 2) Foules, D. : Children's Dreams : Longitudinal studies. John Wiley and Sons. P. 3 (1982)
- 3) Hall, J. A. : Clinical uses of dreams ; Jungian interpretations and enactments. Grune and Stratton, Inc. (1977)
- 4) Webb, W. B. : A historical perspective of dream. In Wolman, B. B. (Eds.) : Handbook of Dreams ; Research, Theories and Applications. Van Nostrand Reinhold Company. (1979)
- 5) Van de Castle, R. L. : The Psychology of Dreaming. In S. G.M. Lee and A. R. Mayes (Eds.) , Dreams and Dreaming. Penguin Books. P. 17~32 (1973)
- 6) Jung, C. G. : The Development of Personality. : The Collected Works of C. G. Jung, 17. Princeton University Press. P. 45 (1974)
- 7) Hall, C. S. : A cognitive theory of dreams. J. gen. psychol. 49, P. 273~82 (1953)
- 8) Hall, C. S. : The meaning of dreams. McGraw-Hill Paperback. (1966)
- 9) Hall, C. S. and Van de Castle, R. L. : The content analysis of dreams. Neredithpub. Co. (1966)
- 10) フロイド, 高橋義孝, 菊盛英夫訳: 夢判断(上), 日本教文社p. 151 (1969)
- 11) アンナ・フロイト, 牧田清志, 黒丸正四郎監修 岩村由美子, 中沢たえ子訳: 児童分析入門: 児童分析家と教師のための講義, アンナ・フロイト著作集 1, p. 24

- 岩崎学術出版社（1981）
- 12) M・フォーダム, 浪花博, 岡田康伸訳: 子どもの成長とイメージ, 誠信書房p. 50, p. 49~86 (1976)
- 13) 樋口和彦, ユング心理学の世界, 創元社 (1978)
- 14) 河合隼雄, 山中康裕編, 箱庭療法研究 1, 誠信書房 (1982)
- 15) 高峰博: 夢学, 広文堂書店p. 407~492, p. 4 (1924)
- 16) 吉益脩夫: 夢の比較研究, 日本心理学会, 心理学論文集 (第一回大会報告) p. 318~323岩波書店 (1928)
- 17) 波多野いそ子: 児童の夢の絵: 心理学研究, 7-1 (1932)
- 18) 守屋光雄: 就学前期児童の夢と絵の研究: 児童心理学研究 (発行所記載なし) (1944)
- 19) 北見芳雄: 児童の夢と欲求: 児童心理, 12-2, 金子書房p. 45 (1958)
- 20) 安田生命事業団: 子どもの眠りと夢, 現代幼児教育, 3-3 (1972)
- 21) 松本淳治: 眠りと夢の世界, 東洋経済新報社p. 133 (1972)
- 22) 松本淳治: 眠りとは何か: 眠りと夢の世界をさぐる, 講談社p. 111 (1976)
- 23) 大熊輝雄: 睡眠の臨床, 医学書院 (1977)
- 24) 貞弘潔志: 幼児の夢-特に2歳児と3歳児について (昭54年度修士論文)
- 25) 福渡もと子: 幼児の夢の内容分析 (昭53年度修士論文)
- 26) 高木順子: 学童期における夢の研究 (昭54年度卒業論文)
- 27) 鎌田 穂: 学童期における夢の研究-施設児童の内的世界 (昭55年度卒業論文)
- 28) 藤田有利子: 夢に関する発達心理学的研究 (昭56年度卒業論文)
- 29) 加藤豊比古: 中学生の夢-Hall, Van de CastleのContent Analysis法による自我の発達様相の分析 (昭和54年度修士論文)

(昭和57年11月9日受理)

## Summary

We have been studying forms of reported dreams, and this study is characterized by an ecological approach. In this paper we studied those of 373 junior high school students - 192 males and 181 females. In order to analyse the content of the dreams, we used the items of the "Content Analysis" (Hall, C. S. & Van de Castle, R. L.; '66). Especially three items as following were analyzed.

- 1) Settings: After the second grade, the tendency of experiencing "Unfamiliar" and "Ambiguous" circumstances is clearer in the dreams of males, although those items were also registered in the dreams of the females.
- 2) Objects: Through all grades, the item "Architecture" was the most frequently seen, followed in number by the "Travel" and "Communication" items.
- 3) Characters: Through all grades both males and females reported dreams in which they have much more contact with the same sex than with the opposite sex. And also in all grades, the males showed a tendency to make contacts with a "Unfamiliar" male "frequently", and the same time the females seemed to have more contact with a "Familiar female".

In the higher grades, both males and females showed a tendency to increase the contacts with the "Familiar" ones.